

これから家づくりをお考えの方に、必ず役に立つ「予約制特別講座」

12月1日(土)・2日(日)

同時開催●構造見学会

午前10時～午後5時 ※見学のみの方は予約は不要です

◆今回のテーマは2つ

「寒い時期だから知ってほしい断熱材の真実」

暖かさを求めた断熱・気密住宅なら健康に過ごせる？

心地よい暖かさとは人に優しい〇〇する断熱材！

「地震に強い家は長持ちするって本当？」

“耐震性”と“耐久性”は違います。

長持ちする家づくりには〇〇が必要です！

■ご予約は11月30日午後3時まで

今すぐご予約を！

ホームページ・お電話で！！

TEL.026-278-4111

春原木材

検索

当日のご予約をご希望される方は上記の電話へお問合せください。

※検索サイトで探してください

予約制特別講座◆会場：長野市篠ノ井会（構造見学会場内）

～木のプロである材木屋の社長がわかりやすく解説いたします～

- 第1回……12月1日(土)：11時～「断熱材の真実」
- 第2回……12月1日(土)：14時～「地震に強い家」
- 第3回……12月2日(日)：11時～「地震に強い家」
- 第4回……12月2日(日)：14時～「断熱材の真実」

全回限定5組様  
残りわずかです



本物の家・昔ながらの家づくりに  
こだわる理由は？  
真実を知ってほしい特別講座です。

なぜ骨組みを見ておく必要があるのでしょうか？



家づくりにおいて完成見学会を数多く見ることは、イメージが弱き、とても有意義なことです。その反面、骨組みの見学会を一度も見たことがないという方がほとんどです。

なぜ見えなくなってしまう部分を見る必要があるのでしょうか？それは後悔しないため、失敗しないため、納得のいく家づくりをするためのです。「長持ちする家」「安心して長く暮らつづけることができる家」「メンテナンス(維持費)のかからない家」をつくるためには骨組みを知ることが不可欠です。

近年の家づくりは、デザインや性能に偏重し、必ずしも寿命が長いとは限りません。春原木材がこの特別講座を続けている理由は、一人でも多くの方に、本当の家づくりを知ってほしいのです。私たちの願いは、耐久性の高い家づくり……………

その理由は、「そこに暮らす家族の未来のため」なのです。

断熱材の真実

当日の特別講座では、断熱材の施工途中や使われている部分を実際に見学でき、その性能を体感していただけます。

またいろいろな断熱材の種類や特徴を解説いたします。さらに実際に住まわれているオーナー様が、独自に記録された温湿度データも公開いたします。

強度と寿命の違いは何か？

地震に強い家とはどんな建物でしょうか？耐震等級などの最新技術や、100年現存する古民家の伝統構法の秘密を解説いたします。さらに熊本地震の検証結果から見えてきた、新たな問題点への対策をお話します。耐震性が高くて寿命が短い住宅の原因を探ります。



■最新の情報や様々な話題などを取り上げています。春原木材のフェイスブックもご覧ください。情報満載！

Facebookでチェックしてね



株式会社  
SUNOHARA

未来へ伝える木のぬくもり

春原木材

TEL.026-278-4111

〒381-1222 長野市松代町豊栄6414-5

http://w.1.avis.ne.jp/~sunohara/

耐久性を究めた「本物の木の家」

あなたの家の見えない部分がどんなふうになっているか、ご存じですか？  
床・壁・天井の仕上材には関心があっても、  
その下地まではあまり考えないというのが普通かもしれません。  
でもほんとうに大切なのは、  
その家がどんなしくみでできているかということ。  
人まかせにしない家づくりは、まず家のしくみ、  
そして何故そのようになっているかを知ることから始めましょう。

ヒノキを使った「本物の木の家」

家の見えない部分には、どんな種類の木が使われているのでしょうか？  
ヒノキと聞くと「高級」「高級品」というイメージを持たれるかもしれませんが。  
実は昔から家づくりには、主要な部分にヒノキが使われ続けているのです。  
その理由は「長持ちする家づくり」にヒノキは必要不可欠な存在だからなのです。  
家族がいつまでも安心して、安全に暮らし続けることができる家  
・・・・・・・・・・それが「本物の木の家」なのです。  
後悔しない家づくり、真に価値のある住まいを実現するために、まずは春原木材の「本物の木の家」  
をぜひ組みからご覧ください。

ヒノキの優れた特徴

ヒノキは強い木として知られていますが、スギなど比べて、ヒノキの生育には非常に時間がかかる上、手入れを多く必要とします。そのゆくりとした時間が年輪をち密にし、木目の詰まった良材になると言われています。耐久性があり、腐朽しにくい優れた素材です。また、その樹種とは異なるヒノキならではの性質は、伐採直後から木質繊維が硬化し、その作用が約200~300年まで続き、強度や剛性が約30%増加することです。このような優れた性質から、ヒノキを主要な部位に用いることは、長持ちする家づくりの理想です。



■丸太梁

家の骨格として主要な部分に用いられる丸太梁は、角材に比べ、断面係数が高く、たわみづらいため、長期間にわたって地震や風嵐などに対して強度を発揮します。気候風土なじむ地元産のアラカを使用しています。



■基礎

新潟中越地震の教訓から、基礎のコーナーに力が集中した場合の歪みをおさえるため、隅部を補強したコーナーハンチ (三角補強) を設けています。布基礎の幅は150mmで基本的な強度を高くしています。



■土台

土台には耐水・耐久性に優れた防蟻・防虫性の効果があるヒノキ4寸角の芯持材が標準仕様です。ヒノキ特有のヒノキチオール<sup>®</sup>の芳香成分は、天然の殺菌効果があり、シロアリやカビの発生を抑えてくれます。



■信頼の証し

春原木材

檜

耐震性 × バランス  
直下率と偏心率

●直下率とは  
1階と2階の壁及び柱の位置が一定の量以上  
上ずれていないかと言う計算が直下率です。

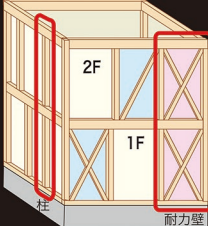
$$\frac{\text{1階と2階での柱の位置が同じ場所の本数}}{\text{2階の柱の本数}} \times 100(\%)$$

$$\frac{\text{1階と2階での耐力壁の場所が一致する壁の長さ}}{\text{2階の壁の長さ}} \times 100(\%)$$

耐震性を保ち続けるためには柱直下率の場合  
50%以上、壁直下率の場合 80%以上、  
確保することが望ましいとされています。

●偏心率とは  
地震の力は建物の重心に最もかかります。  
また建物には最も剛性が強い剛心があり、  
地震の時に水平方向への変形や剛心の周りを  
回転する動きが発生します。この重心と  
剛心のずれを偏心率といい、そのずれの程度  
を偏心率と呼びます。数値が小さい建物は  
バランスの良い建物ということですが、偏心  
率20%以内が目安とされます。

●柱・耐力壁の直下率の概念



耐力壁を構成するすじがい



未来へ伝える木のぬくもり  
株式会社 春原木材

TEL.026-278-4111  
〒381-1222 長野市松代町豊栄6414-5  
http://w1.avis.ne.jp/~sunohara/